

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	腫瘍局在に着目した、手術企図膵癌に対する胆管ステント留置術の検討
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	肝胆膵内科 川口真矢
研究期間	倫理委員会承認後（2025年4月2日）～ 2027年3月
試料・情報の利用又は提供を開始する予定日	実施許可日（2025年4月2日）
対象者	2015年2月～2024年8月の期間に当院で遠位胆管狭窄を伴う手術企図膵癌と診断後に ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を施行され、8mm 径胆管金属ステントもしくはプラスチックステントを留置された患者さんを対象にしています。
当該研究の意義・目的	手術を企図する膵癌は術前に化学療法をすることが推奨されますが、手術までの待機期間が生じるため、閉塞性黄疸を伴う場合はステント閉塞がしにくい大口径の金属ステントの使用が推奨されています。しかし、ステント留置に伴う偶発症はステント径が大きいほどその頻度が高くなることが知られステントの細径化が注目されていますが、その優位性を示す結果は得られていません。一方、われわれは日常診療において、膵癌の局在によりステント留置後の偶発症のリスクが異なる可能性があることを考慮しています。本研究では偶発症の観点から検証を行うこととしました。
方法および研究で利用する試料・情報について	対象となる患者さんの診療録（カルテ）から次の情報を調査します。 <ul style="list-style-type: none">・患者背景（年齢、性別）・臨床データ（血液検査・画像検査、内視鏡手技に伴う偶発症、臨床経過など）
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
問合せ先	◆その他、この研究に関するお問い合わせ、ご意見等ございましたら

下記へご連絡ください。

静岡県立総合病院 肝胆膵内科 川口真矢

代表 054-247-6111